

桑名市子ども・子育て会議 地域の子育て力を育てる分科会 (第3回) 議事録

日 時	平成26年7月16日(水) 午前9時30分から午前11時ごろ
場 所	桑名市役所2階 教育委員室
出席委員	伊藤香、加藤隆明、高橋恵美子(◎)、津田浩二、濱内洋孝、水谷美保 (◎:分科会長)
傍聴人数	3人
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1. 開会2. 議事 (1) 検討の視点をもとに「課題」及び「その解決に向けた方策」の検討(継続)3. その他4. 閉会

1. 開 会

2. 議 事

(1)について

※ 分科会の報告・提言（案）に基づき事務局説明

《発言要旨》

- ・全体の方向性は良いと思う。「誰が」つながりを作っていくのか、「どこで」やっていくのかといった具体的な方策の検討が必要である。
- ・前回の自分の発言に対応した部分で、「子どもの多い地域の」という表現があるが、子ども数ではなく、1世帯あたりの子どもの数が多いという意味なので、訂正願いたい。
- ・ここでまとめた方向性が、今後、具体的な取り組みにつながっていくのか？
- ・これをベースとして、今後詳細を検討していく。
- ・市全体の関わりがないと子育て力を高めるのは難しいと考える。名古屋市の生涯学習センターのような取り組みが参考になるのではないかと。多様な参加を得て全体の底上げを図ることが重要である。イクメン・イクメンの育成していくことなど、地域の人も学べる要素がある。実際にいろいろな取り組みをやっていてもPRが足りないと実感する。学べる方策を入れてほしい。
- ・企業等の社会貢献も重要である。
- ・企業等の協力は必要不可欠である。社会貢献・地域貢献を考えている子ども会や自治会からいけば、大概、協力は得られると考えられる。
- ・地域の活性化という意味で、大山田団地に空き家が増えているが、解体費用が多額にかかるために放置されているのが現状である。解体費用の助成なども考えられる。
- ・少子化対策としては、江戸川区のように独自の手当や取り組みを行うなど、メリハリがあり、かつインパクトのある取り組みが必要。
- ・自分の園では、協力してくれる企業を探して、頼んで、行事をやっている。
- ・保育士は8時間労働、保育時間は11時間、こうした現実に対応するため苦慮しながら園を運営している。
- ・園の再編など民間移譲も含めた視野で、再度、議論していくべきである。それが、適正な財政運営にもつながっていく。「必要」・「不必要」を明確にして議論を進めるべきである。
- ・再編については、市民理解を得ることが重要である。

- ・仮に公立をやめて私立に回せば、通園にかかる送迎バスなどサービスの充実につながる。
私立の運営能力を地域の子どもたちのために活用できるよう、市民にできるだけ多くの選択肢を与えることに配慮すべきである。
- ・桑名市は、同規模の市に比べ、公立の園が多い。その分、運営費がかかっている。正確な情報が市民に伝わっていないのが現状である。公立と私立の平等な保育料設定など財政の活用法を検討すべきである。
- ・29年度には認定こども園はできるのか？
- ・計画に基づき移行する予定である。
- ・再編について、多くのパブリックコメントが寄せられている。それに対する説明、情報が曖昧である。
- ・国の制度がまだはっきりしていないので、説明しようがない。
- ・④の解決に向けた方策は、「私立・公立に関係なく、桑名市の子どものための支援を」が最初・前面にくるべきである。
- ・公立私立の格差があることを明確すべき。
- ・企業とつなぐ仕組みがあるといい。
- ・次世代育成支援行動計画の評価にあたっては、費用対効果の視点を入れて考えた方がいい。お金の部分が抜けると、改善に向けた評価ができない。
- ・事務局には、本日出された意見をもとに、この分科会の報告・提言案の整理をお願いしたい。それを再度確認したい。

(以上)